

日本人には売らない(2月レポート)

山本 裕之

冬休みを日本で過ごし2月17日に太原に戻りました。本レポートでは日本で過ごした2月前半と中国に戻った後半を記載します。

2024年の春節(2月10日)は日本で過ごしました。除夕(中国の大晦日)の日、中国人が多い西川口を散歩してみたのですが春節らしい雰囲気は全く感じられませんでした。1軒のベトナム系商店で春節風の飾り付けをしていたぐらいでしょうか、川口に住んでいる中国の方は多いのですが、あえて目立たないようにしているようにも感じました。春節用に何か売っていたら買おうと思っていたのに当てが外れたため、自宅で水餃子を作り、CCTVで春節晚会(中国の紅白歌合戦)を見て、ささやかな除夕気分を味わいました。翌日、日本語教室に行くと昔から来ている中国の夫婦の方が水餃子を持って来てくれており、本場中国の水餃子をおいしくいただくことができました。私が山西省に留学した事は知っており、山西省はお酢がおいしいですけど試してみましたかと聞かれました。山西省がお酢で有名なのは知っていたのですが、まだ試したことはありません。すごくおいしいですと勧められたので、太原に戻ったら是非試してみたいと思います。

2月17日、日本での確定申告も済ませ太原に戻りました。14:30羽田を出発、北京で乗り継ぎ太原到着が20:55、一時間の時差があるものの日本と中国は本当に近いと感じます。太原に戻ると気が引き締まるとともに不思議と現実に戻った感じがします。日本にいる方が夢だったような。

2月19日からは後期の授業が開始。そして、いままで、何一つ問題がなかった太原での生活で、”日本人には売らない”という抗日を意識する経験をする事になりました。いつもの日常と変わらない生活の中で起きた出来事でした。

大学のすぐ隣にある商店街での事、ベトナムのクラスメイトが屋台でおいしいような夹馍肉(パンを焼いて味付け肉を挟んだ食べ物)を食べていて、おいしいよ、よく食べていると言っていたので、私も一つ注文しました。店主が作りたてを渡すときに、お前も外国人かと聞くので日本人だと答えると、いきなり”日本人, 我不卖”(日本人!俺は売らない)と言うではありませんか。本当かと聞

くと、”日本人, 我不卖” 売らないといって後ろに退いてしまった。いつかは出会うとは思っていたが、半年間生活をして日本人を意識する事は何もなく生活にも慣れていただけにその場では冷静でしたが、あとでボディーブローのようにショックが来ました。

日本にも中国人お断りの店があると聞いていたし、一時動画サイトでも話題になっていたの、ある意味お互い様です。そのような店は特殊なので中国の方もあえて選ばなければいいとさえ思っていました。ですがいざ自分が中国で逆の立場で経験すると意外とショックは大きいものです。

このような事は良いことではないし、このようなことがないことが理想です。しかしつたない私の旅行経験の中でも海外では多かれ少なかれ経験することです。国際人でもない私が言うのもおかしいですが、国際社会で活動するにはこのような事があっても落ち込むことのない強い意志が必要だと感じる出来事でした。

戦時中の日本と中国、行く前にはあえて見なかった日本軍の太原でのドキュメント「蟻の兵隊」、NHKの戦後の証言の中の山西省に駐留した方々のインタビューなど、日本に戻った冬休みの間に歴史や儒教などをかじってみました。歴史を引きずってはいは交流ができませんが、どのようなことがあったのか歴史を知っておくことは重要だと感じます。昔 20 代の頃、韓国の支社に出張した時に、抗日記念館で韓国の同世代の秘書の方が、日本が韓国でした過去がどうこうではなく、日本人の若い方が歴史を知らないことが悲しいと言っていたことがずっと私の心に残っています。

～～ 写真 ～～

春節休日の最終日 2 月 17 日の羽田北京行カウンター。すごく混んでいるわけではなかった。中国日本間の航空便もまだまだ少なく日中の冷え込みを感じる。



学校の近くのレストランの入り口にて

太原に帰った時には春節の祝日は終わっていたが、爆竹の音など街はまだ春節の雰囲気が残っていた。春節気分は15日後の「元宵节」で終わるようだ。



2月24日「元宵节」

春節の15日後満月の日。「元宵」という丸い団子を食べる。

ランタン飾りを探して街をさまようが見つけれなかった。太原古城ではランタンの展示もあり盛大にお祭りをしていたが、混雑を嫌って行くのをやめてしまった。夜、花火の音だけが太原に鳴り響く。

